

牛久市社会教育委員会議事概要		日時	令和元年7月18日(木曜日)
件名	令和元年度社会教育委員会議	場所 時間	牛久市中央生涯学習センター 大講座室 13:30~15:40
作成年月日	令和元年7月23日(火曜日)	作成者	生涯学習課：関 稔
出席者	(出席委員)	守屋常雄、田井鉄男、泊由香、種子田孝子、松田元、佐々江健治、唯根勉、小島五男、竹上謙一、岡野あつ子、武田直樹	
	(牛久市)	教育長 染谷郁夫、次長 飯野喜行、次長 吉田茂男、生涯学習課長 中野祐則、文化芸術課長 手賀幸雄、スポーツ推進課長 齋藤勇、国体推進課長 横田武史、中央図書館長 関達彦、	
	(事務局)	生涯学習課長補佐 山越義弘、副参事 関稔、主事 板倉美世恵、主任非常勤職員 佐野朱美、社会教育指導員 中島和枝、	
	(傍聴者)	なし	
(順不同・敬称略)			
議事内容	1) 令和元年度社会教育事業概要について ・生涯学習課 ・文化芸術課 ・スポーツ推進課 ・国体推進課 ・中央図書館 2) 社会教育委員の役割について 3) 地域連携の重要性について 4) 今期活動のテーマについて		
会 議 内 容 等			
1. 開会 2. 挨拶(染谷教育長) 3. 委嘱状および任命書交付 4. 役員選出 議長：武田直樹 副議長：守屋常雄に決定 5. 議事 1) 令和元年度社会教育事業概要について ・生涯学習課 ・文化芸術課 ・スポーツ推進課 ・国体推進課 ・中央図書館 上記内容について、各課長、館長から、資料に基づき事業内容の説明を行なった。 【質疑等】 委員：ふれあい美花市民の会の市補助金180万円と予算額は455万4千円の差は何ですか。 (生涯学習課)：予算額には、担当非常勤職員の報酬、消耗品、バス借り上げ料等が含まれております。 委員：ふれあい牛久沼文化のつどいの実際の入場者数はどのくらいでしたか。 担当課：調べてからお答えいたします。 委員：文化芸術活動を展開するのファシリテーター養成ワークショップは参加人数が非常に少ないと思うのですが、その理由を教えてください。ファシリテーターはどのような人を対象としたのですか。 担当課：ファシリテーター養成ワークショップは、この事業に組み込まれているもので、公募ではなく、劇団員の方に参加していただいて、講師の養成のようなものなのでこの人数になっています。 委員：これは、昨年度の提言に入っているキーポイントですので、さらに進めていただければと思います。図書			

館の訪問で、対象の行政区の選び方はどうされたのですか。

担当課：アンケート調査を全区長に行い、その結果、お引き受けいただける行政区と日程調整をして訪問させていただきました。それ以外の行政区もアンケートの結果に基づいて調整を進めているところです。

委員：自治会館にある図書の活用までできればと思います。武道館は今回の国体には使われないということなんですが、今後の活用策、どのような大会等を開催するかという計画があれば教えてください。

担当課：武道館は国体では46都道府県の控えアップ場として使用いたします。

担当課：武道館は4月1日からすでに運用しておりますが、現在でも、空手、柔道、剣道に使われております。今後も、県南の中学、高校の柔剣道の大会を計画しています。また学校開放で無料で練習している柔剣道の利用もあります。少林寺拳法も使われています。

担当課：ふれあい牛久沼文化のつどいの30年度の実績は、参加団体が30、入場者数が600人です。

委員：女化祭りの秋祭りは3,150人、春祭りは180人ですが、春は関さんのオカリナもやっているのでもっと参加人数は多かったと思うのですがこの人数の差はどこからくるのですか。

担当課：これは女化文化芸術活動推進協議会発表の人数で、秋祭りと呼んで12月に行っているものはイベントとして広報活動をして実施しているものです。春祭りは予算の関係もあつたのかと思いますが、そこで講座をやっている関係者だけで規模を縮小して広報活動はせずにこぢんまりと実施されたものです。

委員：集客率、回収率とあるのは、何を表しているのですか。

担当課：集客率は、会場のキャパに対してどれだけの人数があつまったかということです。回収率は公演の委託料に対してどれだけ収益があつたかということで、はじめてすべて黒字になりましたので、交付金を全額市に返しました。

委員：チャンピオンフェスティバル云々、グランドゴルフだけなぜこんなに数が多いのでしょうか。

担当課：グランドゴルフは団体が多く統合されておらず、複数の大会が行われています。それぞれが体育協会に加盟しています。

委員：10人以上の団体であれば体育協会に加盟できるというのがあって、それが継続されています。それを種目ごとに統合したいが、反発もあるという実態があります。逆に1つの団体の中でいろんな種目をやっている団体もあります。体育協会の組織面の課題です。

委員：一つのクラブ内イベントに市が助成しているという現状に違和感があります。たとえば牛久市のテニス大会などと比べると。

議長：議題が多いですから、これだけという方がいらっしゃいましたら追加でお願いします。

委員：武道館を作っていただいて体育協会としては非常に感謝しております。利用する基準はあるのですか。

担当課：団体登録すれば市内でも市外でもどこでも利用できます。ただし市外の場合は料金が5割増しになります。予約に関しては市内の団体を優先して先に予約できるシステムになっています。

委員：成田空港から近いので、海外の選手がクールダウンするのにちょうどよい位置なので、そうした場合の対応は？ アピールの仕方は。

担当課：国内の団体とか、大使館を通してお話がくれば一番いいんですけど。

委員：一番多いのは流通経済大学を通してという話が多いんです。

担当課：流経大で事前の合宿をやっているところがあるようですが、牛久は冷暖房完備なので、夏の東京オリンピックの時期は最適な練習場だと思います。

委員：野球場を拡張する計画はございますか。

担当課：予算的な問題はありますが、スタンドの上の屋根、観客席を作り替えようという計画はもっております。

2) 社会教育委員の役割について

事務局で説明。

議長：今の社会教育委員の役割についてで質問がありましたらお願いします。

委員：ここに書かれていることは非常に立派なんですけど、実際にはこれが行なわれていない。日本全国レベルでそうです。研究調査を行うとすれば予算が生じてくる。牛久市としては県の集まりぐらいは出席していますが、他の土浦、守谷、取手、稲敷もそうだと思いますが、全国レベルの社会教育委員の大会もあります。年度によって1人2人そういったところで他の地域の社会教育委員の方々と意見交流をしたりするためには、費用がかかります。市としては予算が組まれていない。それは牛久全体で考えることで議員さんが予算をちゃんとつけてくれないとできない。教育委員は毎月やってますし市でも認められていますけど、社会教育委員は市の中でも知っている人がほとんどいない。市で行われる行事に関しても教育委員は呼ばれて参加してはいますが、社会教育に関する行事でも社会教育委員は呼ばれないんです。社会教育委員って何なの。ほんとにやるのかやらないのかを牛久でも考えていただかないと。名前だけの社会教育委員はいらないと思います。これは日本全国レベルのことです。

教育長：委員さんおっしゃるように、社会教育委員の会議も年に1回か2回だった。形だけやっているという状況だった。そこで今年からすべての学校でコミュニティースクールを作りました。キーワードは地域と学校、今までは、学校教育と社会教育とでは学校教育のほうがすごく強くて、社会教育は弱かったというのはあると思うんです。それを一緒にして目的をもって進めましょうという動きを牛久でもとっていかうとしている一つはコミュニティースクールです。もう一つは教育振興基本計画を作りました。さきほどの生涯学習課は何かを支援します、何かを支援しますで目的がありません。ある団体にお金をつけて応援しているだけです。なんの目的もないままただやっているというのが今の現状です。そこで、生涯にわたって学び活躍していく人づくり。(1)学習機会の提供活動、(3)地域と学校の連携強化、(4)地域の育成、という目的を今度作りました。目的ごとに自分たちがやっている活動をまとめていきましょう。そうすることで学校教育と社会教育をつなぐ、この計画を4月に作りました。今日の発表にはまったく生かされていない。教育振興基本計画を作りましたので、目的によって、活性化していければと思っていますのでよろしくお願いします。

委員：人生の中で学校教育はある一定の期間だけです。社会教育は学校教育以外の部分なので、人生のパーセントからすると大きいです。だから社会教育委員も教育委員並みの立場にしないと、社会教育委員って何なのと知らない人が多い。予算をどのように配分するかなど精査する部分にも関わればというのが前回の社会教育委員会の会議の中でもありました。

委員：社会教育委員の役割について説明してくれましたけど、一昨年この会に初めて参加させていただいて社会教育委員っていつまでに何をやるのでしょうか。というお話をしました。結果として今日このような紙を出していただいたことに対して2年前の話が関係してればいいことだったと思っています。何やるにしてもお金がかかります。どこかに行って聞けるような資料の説明をこの場で全員が集まってするのは意味があるんだろうかどうなんだろうかという気がします。この紙を出していただくまでに2年前に出した意見に対して生涯学習課はこう考えてこう動くようにするよというリアクションが欲しいです。大人が話し合っただけ意見がでます。いろんな方がいるのでいろんな意見あります。意見に対してリアクション、レポートが必要だと思います。

担当課：行政でもできる範囲でやっていこうと進めているところです。全員の方の意見を全部実現するのは不可能な考え方ですので、会議の中でこういうことをやりましょう、こういう方向で進めましょうと意見をまとめていただいて出していただいて、それに対して行政はどのような対応をするかという進め方でやっていただくと進行状況もなにかの機会・会議でこのようにやってますという考え方を進めていけばと考

えております。

委員：いろいろな意見が出てきます。会議ですから議事録があります。議事録の中に意見が入ってきます。それを次のときに確認するといったことから始めないと、答えは出てこないと思います。

担当課：今のご意見のとおり、ここで今お話が出た内容は記録として留めておきますので、次回の会議のときに出しまして、確認していただいてまとめていきたいと思います。よろしければ次回からそのようにさせていただきます。

委員：区長会の役員会の席でも毎回牛久市は聞いてくるけど意見を出してもリアクションがない。これは毎回役員会で言ってきました。これが牛久市の現状です。ですのでこれはこの会だけではなく、他もそうかもしれない。

議長：PDCAをきちっと回していけるようにできればと思います。

委員：みなさんすばらしいするどい質問があったり深い見方をしてるんだなあと感じたんですけど、教育長からありましたように目的の明確化とかこれまでやっていることの価値づけということでお話をします。たとえば学習機会の提供活動支援、図書館機能の充実ですとか、地域人材の育成、生涯学習課でやっていただいている平和使節団があります、図書館リーブルの会、いろんな本こんな本を授業で使いたいというのも、どこどこにあるというのがすごくよくまわっていて非常に学習にも助かっているし、読みたい本が読める。芸術鑑賞の能や歌舞伎は、日本の伝統文化に触れるきかいがないところを牛久市では推進していただいていますので子どもたちにとっては勉強になるし、牛久にいれば必ず触れることができる良さがあります。人材育成、生涯教育という意味でも価値のある活動をやっていると感じています。ぜひ続けてほしい。

3) 地域連携の重要性について

議長より説明

議長：協働がいかに必要なかというお話をしましたが、何か質問等ありますか。

委員：社会教育委員が活性化するためには、年に2、3度会議を開くだけではまったく進まないと思います。いままでと同じことの繰り返しになると思います。会議をもう少したくさんやる必要がある。

議長：そのあたりの方針、今年度こういう取り組みでいこうというあたりを事務局から説明お願いします。より活発化していこうというのは皆さんの意見から出ているところですが。

委員：その前に、去年まとめた提言があります。これに対してどういうリアクションがあるか。

事務局：昨年度、牛久市で初めて提言をまとめました。それまでは、年に1回か2回の会議で形式的に行われたものを、昨年度は会議をかなり重ねまして何について提言しようかというところから重ねまして、提言としてまとめあげるまで1年間という短い期間で会議を重ねてやってまいりました。今年度もそれを踏まえてまた新たなテーマを決めて社会教育委員として提言までもっていければと考えています。それに必要な会議は重ねていかなければいけないと思います。

委員：3月22日の提言に対して今回その内容が反映されるはずだったのに、教育長もそのあたりが反映されていないと。この提言は何だったということになる。

委員：今回、今、ご説明いただいた中身を見て、提言がかなり入っていると感じています。たとえば図書館関係の資料。スポーツ推進課も提言ではできるだけいろんな形でスポーツ人口を増やしていこうと裾野をひろげようという提言があって、ある程度提言が活かされているなど感じています。

議長：PDCAをまわしていこうという話の中で昨年度の提言を踏まえた上で今年度も進めていくというのが流れかなと感じています。

委員：社会教育は幅がものすごく広いです。学校教育以外のすべてが入ります。そのすべてをこの会議でやるというのはすごく大変なことで、幅広く奥が深いのでこの会議ではできないので、昨年やったように焦点

をしぼって、それについて提言をしていくということにしないとかなり難しいと思います。

議長：2年間に渡って活動のテーマを決めて、2年間かけて新たな提言ができればと考えています。提言が実践されるというか反映されないと提言を出しようがないかなという気はしております。このあとテーマを設定するというような、提言がどのように反映されたかをやってしまうと今日は時間がとても足りないので次回にでもご説明いただくにしても、今後は2年間の活動テーマを決定していくということで進めさせていただければと思います。

担当課：テーマを決めていただければと思います。決めるというか大まかな話ですか、大きなものを一つ作ってその中でいろんな考え方が出ると思います。まず大きなテーマ1つを作っていただいて、それに対してみなさんの意見をもらって決めていく。今日そのままですと時間がいくらあっても足りない。次回でなんとかまめられればと考えておりますので、テーマ1つあればと思います。

4) 今期活動のテーマについて

議長：この場で大きなテーマをみなさんから出していただくということでよろしいですか。この2年間、こういったテーマでこの2年間取り組んでいければということでテーマをあげていただければと思います。あと10分ぐらいで終わりにできればと思っています。

委員：いろいろな課長さんの今年度の活動予定をうかがってますと、もう少し具体的なものが必要なんじゃないかと感じました。図書館が利用者を増やすために具体的に外に出るとするのは具体的だなと思いました。他の課の方は例年やってることを同じように予算をつけて、社会教育力向上のための効果測定も無し、牛久市の社会教育力を上げていくために生涯学習課はこういうことを具体的にやって、スポーツ推進課でしたら具体的にこういうことをやって限られた予算の中で効果精査して具体的に社会教育力をこう方向でこうやって上げていくんだというような事業計画のご提案がないと。時限付きの目標、なるべく数字に置き換えられものは置き換えて、置き換えられないものは別の置き換え方をして時間と目標をきちんと定めて効果測定を行って具体的に牛久市教育委員会として社会教育力を前進させようそのための具体的なことを我が課ではこうやっていくんだと、それに対して職員外部の我々のような委員が集まって意見を求めたいというのが本来なのではないでしょうか。

委員：皆さん出身が違うわけです。そこでそれぞれがこういうことやりたい、こういうこと知りたいと出していくとまとまりつかないと思います。行政の側からこういう問題があるんだけどどうしたら解決できるだろうかと逆に問題を投げかけてもらって、それをみんなでこうしたらいいんじゃないかとかいう話し合いをしてまとめ上げる、そして最終的には提言書ができあがればベストだろうと思います。それぞれが違った立場で自分が関心のあるところだけ出していったらきりが無いと思います。とにかく範囲が広いなんでも取り上げなくてはいけない世界だと思いますので。

教育長：目的志向でなかった部分はたしかにあります。ですから評価指標もとりにくいし、成果も見にくいというのが現実だった。毎年同じことをやり直している。それはまずいだらうということで、今回、教育振興基本計画を3月末に作ったんです。

担当課：5年間の計画なんです、この計画書の中に3年ごとの実施計画を作ってローリングをしていきながらこの計画の進捗状況をはかっていきたいと思います。具体的には各課が1個1個の事業を令和2年3年4年にかけて今こういうことを考えていることを出し、それを計画書にまとめこれに基づいて来年度の予算編成の指針となるような仕組みがくみたくております。今年教育企画課という組織ができました。これは学校教育と社会教育の全部が入っていますが、実施計画を作るときの社会教育の部分につきまして、各課があげてきた来年度以降の予定を皆さんに提示しながらご意見をいただいたりとか、プロセスを踏むことによって、社会教育委員さんの意見を反映することができるPDCAの仕組みとして

はご提案できるかなというのが今の私の感想です。

教育長：今までは、各課があるんですが、調整する部分がなかったんです。企画課を作って全部の課を調整してこうと、PDCAをコントロールしながらしっかりまわしていこうということで、各課を調整して皆さんに提案できます。

担当課：田井委員からありました平成31年3月22日の提言書ですと、令和元年度今年の予算には反映されていません。その時点では予算は決まっています。この提言書は来年度の予算に反映せざるを得ないんです。この提言書を受けて今やっている作業の中で各課はこの提言に対してこういう工夫をしたんだということを提案してもらいそれを今私共でまとめてますのでいったんまとめたものをこの会議の場で提示して確認をしてもらおうとかご意見をいただくとかということではできるかと思います。

議長：今後に向けてこういうことをやっていこうということを今まとめられていてそれに対して委員さんから意見を伺っていくということ。

担当課：予算というのは市長部局の権限ですから、教育委員会で予算を作ることはできませんが、予算の指針として教育委員会としては来年度の実施計画でやりたいんだということを市長部局に意思表示はできます。それを作る段階のときに社会教育分野は社会教育委員さんのご意見を反映した上での計画づくりというのがPDCAのPがきちんとできるかなというのがひとつのご提案です。

議長：やるとなるとだいたいいつぐらいの時期ですか

担当課：今、各課から集めて、内部での集計作業を7月8月ぐらいでやる予定です。予算編成が11月から始まりますから、9月か10月にみなさんからご意見をいただいた上でそれを作り上げるのは可能かと思いません。

議長：我々が何かを幅広い中から作り上げるより市のほうからこういったものが課題になっているんだこういったものに取り組みたいんだというのがないとなかなか意見が出せないというのがありましたので、そういった課題を来年度予算に生かしていく、9月10月の実施というのは考えられますか。そのほうがやみくもにあれこれ提言するよりニーズとシーズがマッチするような進み方ができると思います。

委員：この提言書の中にキーワードがまとまっています。その方向性として、若い世代の人たちをいろいろな行事に参加してもらおうと。ターゲットは若い子育て世代ということで入っています。行政から与えられるんじゃないで、こちら側の意見を聞いていただくほうが、行政の方もやることに困ってしまうと思います。社会教育委員の小委員もずいぶんやって、これを生かしてもらいたいんです。現役世代、働いている世代をいかにいろんな行事に出してもらおうか。運動会やっても元気な高齢者が中心になっているわけです。グランドゴルフだって若者はやりません。ニュースポーツだって若者が積極的に参加できるようなスポーツの種目をどうやってやるか、そういった大会をどうやってやるかということなんです。文化芸術課の予算は一般財団法人地域創造助成事業でやったことを外部の予算ではなく牛久市の予算として小学生とか乳幼児の保護者を対象として、この方たちは働いていて時間がないといっていますが、こちらでいろいろと用意してあげれば出てきてくれると思うんです。そこでいろいろ悩みなども話ができると思います。そういう場をつくってあげるといのもどのスポーツにしる学校のところにしても共通だと思います。だからキーワードは若い現役世代をいかにいろんな行事にみちびきだすかというのが提言に入ってると思います。やみくもなことではないと思うんですけど。ぜひともこれを生かしていただきたい。現役世代が元気だと全部元気なんです。

議長：次回のありかたからもう1回再検討していただくのがいいのかなと。テーマを決めて何かをやるというよりは、今後の事業計画に委員さんの意見を反映していく仕組みだとか、社会教育委員のありかたをもう一回考え直したほうが次に進みやすいかなと。

副議長：自己批判ですが、審議会としては前回まで前議長がいらっしゃいました。前議長と私とはこの件では一回も話がないんですよ。僕も悪かったんですが、今日、何をやるのかなと不安で出てきたんです。みなさんに申し訳ないことをしたと思って。今後は我々も議会として引き継ぎはきちっとやっていきたいと思います。

委員：提言の内容が反映されて計画がつくられていると思うんです。ただ実施するにあたって課題があるわけでしょう。その課題をみんなに見えるようにしてもらおうのが次のステージかなと思うんで、次回のときにそういったところを出してもらおうと、そうしないといつも同じところで前へ行かないと思うんです。計画ができたなら前の提言が反映された中で何が課題なんだか実施するにあたって。それを出してもらってPDCAをまわしていくというのがひとつのやり方だと思います。

議長：今日は閉じさせてもらって大丈夫ですか。社会教育委員のメンバーの方々の熱いやる気だなあとひしひしと感じてきましたので、そういう動きこれからの牛久市の社会教育がかわっていくんだということを一から練り上げていければと思います。今日はありがとうございました。事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

事務局：7/19開催の茨城県社会教育委員連絡協議会研修会の案内

6. 閉会